

第 64 回

Japanese Association of Student Counseling

全国学生相談研修会プログラム

主催：一般社団法人　日本学生相談学会

後援：文部科学省・独立行政法人　日本学生支援機構

第６４回全国学生相談研修会の開催にあたって

一般社団法人 日本学生相談学会
理事長　鈴木　健一（名古屋大学）

今年も 11 月に、64 回目となる全国学生相談研修会を開催する運びとなりました。

本研修会は、大学・短期大学・高等専門学校などにおいて学生相談・学生支援に携わる教職員の方々に広く開かれている場です。ぜひ多くの方にご参加いただき、学生相談および学生支援に関する新たな知識や視点を得ていただければ幸いです。

また、日本学生相談学会の会員の皆さまにとっては、互いに学び合う場であると同時に、自らの実践を問い直す機会でもあります。今年も、多様で実りあるプログラムを企画することができました。馴染みのある分野に加えて新たな領域にも積極的にチャレンジしていただければと思います。

特別講演では、京都大学大学院人間・環境学研究科准教授の松本卓也先生をお迎えし、「相談はなぜ難しいのか －『斜め論』から考える-」をテーマにご講演いただきます。松本先生は、精神分析および臨床心理学の視点から、現代の若者の心や人との関わり方について発信を続けておられ、多くの読者や実践家から注目を集めている研究者です。学生との関わりに従事しておられる方はもちろん、学生相談機関や大学組織の運営に携わる皆さまにとっても、新たな視点と気づきをもたらすご講演となることと存じます。

本研修会は、今年度も文部科学省および独立行政法人日本学生支援機構のご後援をいただく予定です。参加される皆さまにとって、本研修会が新たな視点や勇気を得る場となり、今後の実践の糧となることを、また、このような学びの場が、学生たちを支援する私たちの「つながり」を深め、支え合いの力を育む機会となることを、心より願っております。多くの皆さまのご参加を、心よりお待ち申し上げます。

第６４回全国学生相談研修会実施要項

１．主　催

一般社団法人日本学生相談学会

２．後　援

文部科学省　独立行政法人日本学生支援機構

３．準備委員

準備委員長　中島正雄（放送大学）

準備委員

桶谷雅人（東京科学大学）	小田真二（九州大学）
樫木啓二（早稲田大学）	木内理恵（法政大学）
小池有紀（青山学院大学）	小島奈々恵（東北大学）
小橋亮介（岡山大学）	鈴木健一（名古屋大学）
髙橋国法（東京都市大学）	高松里（九州大学）
田附あえか（大正大学）	野原一徳（豊橋技術科学大学）
長谷川伸江（関東学院大学）	松川春樹（金沢大学）

４．期　間

第１部：２０２６年１１月　６日（金）　１０：００～１７：００
第２部：２０２６年１１月２０日（金）　１３：００～１８：００
　　１１月２１日（土）　９：００～１５：３０

５．開催方法

第１部：Zoom によるオンライン開催
　※各自 Zoom を利用できるようご準備をお願いいたします。
第２部：参集開催（新宿 NS ビル　東京都新宿区西新宿２丁目４番１号）

６．参加資格

- 大学・短期大学・高等専門学校において学生相談・学生支援に携わる教職員および一般社団法人日本学生相談学会会員
- 申し込んだプログラム（第１部・第２部両方もしくは第１部のみ）に全て参加できること

７．定　員

５６０名（第１部・第２部両方：３６０名、第１部のみ：２００名）

８．プログラム

５～７ページ参照
※ 若干の変更が生じる可能性もあります。

９．参加費

【第１部・第２部参加】

日本学生相談学会正会員	２５，０００円
日本学生相談学会機関会員	１名２５，０００円（２名まで。３名以上からは一般参加です）
一般（非会員）	２７，０００円

【第１部のみ参加】

日本学生相談学会正会員	７，０００円
日本学生相談学会機関会員	１名７，０００円（２名まで。３名以上からは一般参加です）
一般（非会員）	９，０００円

※ 機関会員は第１部・第２部参加と第１部のみ参加を合わせて２名までです。
※ 参加費は課税（１０％）対象となります。

１０．参加申し込みから参加決定まで

１）申し込み方法

申し込み期間：２０２６年7月1日（水）～7月２４日（金）

参加希望者は、本プログラム１９ページの「参加申し込み方法　要領」にしたがってお申し込みください。

なお、定員に達した場合、先着順で期日前に締め切ります。

２）情報保障について

情報保障等、特別な配慮が必要な方は参加申し込みフォームにてお知らせください。

３）参加費の納入

クレジットカード決済または銀行振込決済が利用できます。２０２６年9月１６日（水）までにご入金ください。参加を取り消される場合でも参加費は返金いたしません。代理の方の参加を認めますが、必ず事前にご連絡ください。

なお、参加コースの変更はできません。また、第１部・第２部両日参加から第１部のみの参加への変更もできません。

４）領収書について

領収書は、Confit サイト（https://jascz.confit.atlas.jp/login）からダウンロードしてください。決済完了後、ログインした画面の「領収書ダウンロード」から発行できます。

領収書発行期限は２０２６年１２月２２日（火）です。

５）参加決定

参加費の納入をもって参加決定とします。参加決定者には、１０月初旬から１０月末にかけて、各枠で参加していただくコース名（コース決定通知）、Zoom のアクセス情報等の連絡をメールでお送りします。

１１．研修証明書

本研修会は、一般社団法人日本学生相談学会が認定する「大学カウンセラー」また、学生支援に携わる教職員のための資格「学生支援士」の取得および更新に必要となる研修に該当します。研修領域は特別講演・小講義・分科会ごとに示しています。

分科会 G3「学生相談の基礎と実践Ⅱ」は「学生支援士」取得にあたり必修の研修となっています。7、１２、１３、２０ページの注意書きについてもご確認ください。

また、（公財）日本臨床心理士資格認定協会が認める「臨床心理士」継続研修では、「領域（３）関連学会での諸活動への参加『ワークショップ型研修会』」に該当します。

参加者には「研修証明書」を発行し、後日郵送いたします。

１２．参加申し込み・問い合わせ先

〒180-0013 東京都武蔵野市西久保 1-1-9-203 一般社団法人日本学生相談学会内

第６４回全国学生相談研修会事務局

E-mail：zenkoku@gakuseisodan.com　　TEL&FAX：0422-52-3700

※ 可能な限りメールでお問い合わせください。

１３．その他

諸連絡および証明書の送付先は、参加申し込みフォームにご記入いただいた連絡先へお送りします。変更が生じた場合は、メール等にてご連絡願います。

第６４回全国学生相談研修会プログラム

本研修会はオンライン形式の第１部と対面形式の第２部で開催日程を分けて実施いたします。第１部では、特別講演（全体）と、小講義（選択制）２枠、第２部では対面による分科会１枠（選択制）が行われます。



特別講演

講師と共に参加者でテーマを共有する全体会です。

１１月6日（金）１０：３０～１２：１０

相談はなぜ難しいのか －『斜め論』から考える-（研修領域 E）

講師　松本　卓也（京都大学）

司会　中島　正雄（放送大学）

小講義

最近の高等教育・学生相談に関するテーマや、実践に役立つ話題から構成されています。
関心に合わせて２枠（小講義１、小講義２）それぞれから一つずつ選び、受講してください。

小講義１．１１月6日（金）１３：１０～１４：５０

T1　こども・若者の自殺とその予防（研修領域 D）

講師　末木　新（和光大学）

司会　野原　一徳（豊橋技術科学大学）

T2　発達障害のある大学生の支援（研修領域 D）

講師　大島　郁葉（千葉大学）

司会　小池　有紀（青山学院大学）

T3　学生相談に活かす精神分析の知と技法（研修領域 B）

講師　戸谷　祐二（明治学院大学）

司会　小橋　亮介（岡山大学）

小講義２．１１月6日（金）１５：２０～１７：００

T4　大学院生への学生相談の可能性（研修領域 A）

講師　道又　紀子（東京科学大学）

司会　松川　春樹（金沢大学）

T5　大学生の薬物使用と支援 -大学教育機関と医療機関の接続可能性-（研修領域 D）
講師　喜多村　真紀（国立精神・神経医療研究センター）
司会　木内　理恵（法政大学）

T6　性暴力被害当事者＆支援者の視点から考える TIC と当事者理解・支援（研修領域 D）
講師　八幡　真弓（Praise the brave）
司会　樫木　啓二（早稲田大学）

分科会

・　講師による講義や話題提供、参加者間のディスカッションや分かち合いを通して理解を深めます。学生相談・学生支援歴や所属、関心に合わせて一つ選択し、２日間に渡って受講してください。定員を３０名程度としますので申し込み時には第３希望まであげていただきます。
・　学生相談・学生支援に携わって間もない方には G1、G2「学生相談の基礎と実践Ⅰ」をお勧めします。２コースとも柱となる内容は共通ですが、細部は講師によって異なります。

分科会1日目．１１月２０日（金）１３：００～１８：００
分科会2日目．１１月２１日（土）　９：００～１５：３０

G1　学生相談の基礎と実践Ⅰ-①（研修領域 A）
奥野　光（二松学舎大学）　　桶谷　雅人（東京科学大学）

G2　学生相談の基礎と実践Ⅰ-②（研修領域 A）
太田　裕一（静岡大学）　　長谷川　伸江（関東学院大学）

G3　学生相談の基礎と実践Ⅱ（研修領域 A）
今江　秀和（広島市立大学）　小松　孝徳（明治大学）　奥村　賢史（名古屋芸術大学）

G4　学生支援におけるパーソンセンタード・アプローチ（研修領域 B）
本山　智敬（福岡大学）　　小田　真二（九州大学）

G5　留学生支援 -異文化を楽しむコツ-（研修領域 A）
黄　正国（九州大学）　小島　奈々恵（東北大学）　高松　里（九州大学）

G6　大学生の触法行為（研修領域 D）
工藤　晋平 （名古屋大学）　鈴木　健一（名古屋大学）　江上　奈美子（東京農工大学）

G7　学生支援におけるマインドフルネス（研修領域 B）
小林　亜希子（マインドフルネス心理臨床センター）　　木内　理恵（法政大学）

G8　教職員のためのストレスマネジメント（研修領域 B）
坂上　頼子（オフィスかけはし）　　小林　弥生（関東学院大学）

G9　高専におけるいじめ・ハラスメント対応（研修領域 D）
濵中　ミオ（仙台高等専門学校）　　野原　一徳（豊橋技術科学大学）

G10 カウンセラーのための事例検討（研修領域 C）
池田　忠義（東北大学）　　馬渕　麻由子（東京農工大学）

G11 個人と組織を見据えた学生支援（研修領域 B）
松本　寿弥（名古屋大学）　　松川　春樹（金沢大学）

G12 みんなで考える研究への道 -実践を論文にしたいあなたへ-（研修領域 F）
山川　裕樹（成安造形大学）　　小橋　亮介（岡山大学）

※１　本研修会のプログラムは、日本学生相談学会の認定する「大学カウンセラー」および「学生支援士」資格の研修カリキュラムをもとに構成されています。両資格の「認定規程」に定める研修領域は以下の通りです。

A：学生相談総論
B：カウンセリングの理論と学習
C：ケース・アセスメント
D：学生の諸問題
E：大学教育と学生相談
F：調査・研究

特別講演、分科会、小講義のそれぞれに該当する研修領域がタイトルに付記されています。

※２　分科会 G4・G6・G7・G9・G10・G11・G12 では事例を扱います。ご参加にあたっては以下の注意事項を確認し、同意の上でお申し込みください。

・事例の詳細についての守秘に留意してください。
・事例の詳細が記載された資料など、「回収」とされる資料があれば必ずお返しください。
・事例の発表をお考えの方は、倫理的配慮についてあらかじめ講師とご相談ください。

特別講演・小講義の事後配信

参加特典として第１部の特別講演および各小講義を研修会終了後期間限定でアーカイブ配信いたします。当日ご参加されなかった小講義も視聴できます。復習等にお役立てください。

学生支援士資格説明会

第１部１１月６日（金）の昼休み（１２：２０～１２：５０）に「学生支援士」資格の説明会を実施いたします。学生支援士は、学生支援に携わる教職員を対象にした、日本学生相談学会が認定する資格です。資格の趣旨や取得方法についてご説明いたしますので、関心のある方はぜひご参加ください。

なお、学生支援士資格の指定研修は G3「学生相談の基礎と実践Ⅱ」です。今年度に申請を予定している方は G3 分科会をお申し込みください。

分科会会場の昼休み中の開放

分科会２日目１１月２１日（土）の昼休みはどの分科会会場でも自由に昼食をおとりいただけます。参加者同士の交流の機会としてご活用ください。なお、持参した昼食のゴミは各自お持ち帰りください。

特　別　講　演

講師と共にテーマを共有、検討する全体会です。

１１月６日（金）１０：３０～１２：１０

相談はなぜ難しいのか －『斜め論』から考える－（研修領域 E）

講　師　　松本　卓也（京都大学）
司　会　　中島　正雄（放送大学）

大学の相談窓口は、うまく機能することもあれば、うまく機能しないこともある。それにはさまざまな理由があるが、ひとつは、学生相談というものが、いつのまにか単なる「管理」であったり「規格化された支援」の場に陥っているということがあるのではないだろうか。本講演では、近年注目されている当事者研究やオープンダイアローグ、あるいはフランスのラボルド病院で実践されている「制度による精神療法」の知恵を借りながら、大学という組織においていかにして「管理」や「規格化された支援」を乗り越える「相談」を可能にするのかを、参加者とともに考えてみたい。

たとえば、フェリックス・ガタリが提唱した「主体集団」や、ジャン・ウリの「コレクティフ」といった概念は、学生一人ひとりの「特異性」が損なわれない場をいかに構築するかを教えてくれるだろう。また、これらの概念を用い、「ケア」という言葉が持つ、「つながり」から「支配」への反転という二面性に光を当てたい。

講師紹介：松本　卓也（まつもと　たくや）

1983 年、高知県生まれ。2008 年 3 月、高知大学医学部医学科卒。2015 年 3 月、自治医科大学大学院医学研究科修了、博士（医学）。2016 年 4 月より、京都大学大学院人間・環境学研究科准教授。研究分野は、精神病理学。著作に『斜め論―空間の病理学』（筑摩書房）、『人はみな妄想する』（青土社）、『心の病気ってなんだろう？』（平凡社）、共編著に『コモンの「自治」論』（集英社）など。

小　講　義

学生支援・学生相談の基礎を扱うものから、最近の学生や高等教育に関わる課題、実践に役立つ話題まで、多様なテーマで構成されています。関心に合わせて２枠(小講義１、２)それぞれから一つずつテーマを選び、受講してください。

小講義１　１１月６日（金）１３：１０～１４：５０

T1　こども・若者の自殺とその予防（研修領域 D）

講師　末木　新（和光大学）

国における自殺対策の本格化（2006 年：自殺対策基本法、2007 年：自殺総合対策大綱）以降、大学生の自殺者数は右肩下がりであったが、2018 年頃より増加に転じた。大学生のみならず、近年、我が国ではこども・若者（10～20 代）の自殺者数が増加しており、2025 年の自殺対策基本法の改正ではこどもの自殺対策の強化が焦点となった。それでは、大学生を中心に、こども・若者の自殺を予防するために我々はどうすれば良いのであろうか。そこで、ここでは、こども・若者の自殺の現状、自殺の発生プロセスや危険因子、自殺予防方法についての概要を示し、大学生の自殺を防ぐための基礎知識を提供することを目的とした講義を行う。

講師紹介：末木　新（すえき　はじめ）

2012 年東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース博士課程修了。公認心理師、臨床心理士。現職、和光大学現代人間学部教授。第 17 回日本心理学会国際賞（奨励賞）受賞。著書（単著）に『シン・自殺論』（金剛出版，2026）、『自殺学入門』（金剛出版，2020）他。

T2　発達障害のある大学生の支援（研修領域 D）

講師　大島　郁葉（千葉大学）

発達障害のある大学生は、高校までとは異なる主体的な学習環境に適応できず、困難を抱える場合がある。しかし、大学生まで未診断・未支援で過ごしてきた学生の中には、「社会的カモフラージュ」によって困りごとが見えにくく、支援につながりにくい者も少なくない。近年の研究では、思春期以降にこうした傾向が強まる可能性も示されている。本講義では、社会的カモフラージュの特徴を解説し、支援者が発達障害をどのように理解し受け止めるべきかについて考察する。

講師紹介：大島　郁葉（おおしま　ふみよ）

千葉大学子どものこころの発達教育研究センター教授。臨床心理士・公認心理師。自閉スペクトラム症の社会的な受け入れと自閉症者の心理社会的ストレスの変動を研究しており、その一部に社会的カモフラージュも含まれる。

T3　学生相談に活かす精神分析の知と技法（研修領域 B）

講師　戸谷　祐二（明治学院大学）

学生相談の目的は青年期にある学生としての適応の支援ですが、私はしばしば彼らの中の乳幼児的部分にも目を向けます。「教室に入るのが不安」という 訴えに、大人の集団に放り込まれた幼児の不安を想像するのです。これは青年期における課題や適応と子どもとしてのニーズや不安を複眼的に捉え、立体的に理解することで、自我をより深く丁寧に抱え、支持し、両者の改善や安定を促すことができると考えるからです。本講座では、乳幼児的部分を扱う精神分析の理論、技法（乳幼児的心性、自我支持、抱える環境など）と学生相談とのコラボレーションによる複眼的、立体的な理解に基づく面接、連携、危機マネジメントなどについて実践的にお話しします。

講師紹介：戸谷　祐二（とだに　ゆうじ）

明治学院大学学生相談センターカウンセラー（前主任カウンセラー）。日本精神分析学会認定心理療法士、臨床心理士、公認心理師。学生相談に携わり約 30 年、精神分析的心理療法の実践はさらに長くなります。精神分析的な支援が学生の皆さんの、そして学生相談の礎の一つになるとよいなと思っています。

小講義２　１１月６日（金）１５：２０～１７：００

T4　大学院生への学生相談の可能性（研修領域 A）

講師　道又　紀子（東京科学大学）

大学院生は学部生に比べ、より主体的に研究することが求められる。修士・博士と学年が上がるにつれ、その傾向が大きくなる。研究室は、一般に構成員が少なく、指導教員をはじめとする上下関係がはっきりしている。ここに身をおきながら、どう自己実現を目指していくのかは、時に非常に難しいけれど、一方で人としての成長に大きく寄与する過程でもある。

学生相談員や学生支援に携わる教職員は、研究室外で話せる貴重な人的資源であり、この成長に大きくかかわれる可能性がある。この講義では、まず修士・博士のそれぞれの課程で課題となることを挙げる。また複数の架空事例を通してそれを乗り越えるプロセスと学生相談の役割について考えてみたい。

講師紹介：道又　紀子（みちまた　のりこ）

国際基督教大学大学院修了

1997 年から 24 年間、東京工業大学（現東京科学大学）大学院校舎で大学院生の学生相談に従事。

2021 年から 2025 年まで、学生相談室・バリアフリー支援室からなる学生相談部門長。現在は学生相談室の特任教授・企業の外部役員をしています。企業の立場から学生相談を見直しています。

T5　大学生の薬物使用と支援 -大学教育機関と医療機関の接続可能性-（研修領域 D）

講師　喜多村　真紀（国立精神・神経医療研究センター）

大麻など規制薬物事犯者数、医薬品のオーバードーズによる精神科受診者数・救急搬送者数は増加傾向にあり、薬物使用関連問題（以下、薬物問題）を持つ若年者への支援の拡充が求められる。

大学生の薬物問題への支援資源として、大学内支援機関（以下、学内支援機関）に対する社会からの期待は高い。その一方で、学内支援機関に実施可能な支援には制限があり、多機関と協働での支援が不可欠である。

そこで、本講義では、研究者としての立場から、これまでの関連調査について報告するとともに、地域の臨床家として、医療機関が学内支援機関へ望む学生支援について話題提供する。さらに、大学と地域連携の強化に向けた意見交換を行いたい。

講師紹介：喜多村　真紀（きたむら　まき）

博士（臨床心理学）。2019 年より国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部にて、薬物依存研究に従事。主な研究テーマは、若年者や繁華街に集まる子どものアディクション支援に関する調査、SNS を情報源とするオーバードーズに係る情報疫学。地域のクリニックにて心理臨床に携わる。

T6　性暴力被害当事者＆支援者の視点から考える TIC と当事者理解・支援（研修領域 D）

講師　八幡　真弓（Praise the brave）

性暴力被害当事者＆支援者の経験と視点をもとに、トラウマインフォームド・ケアに必要な、被害時や後に起こりうる反応・トラウマの影響についてお話しします。また、2026 年刊行の『トラウマの国のアリス　解離性障害と性暴力被害』での記述もご紹介しながら、社会や支援の中で（時に悪意がなくても）起こりうる二次加害（二次被害）、構造的・制度的な二次加害について、また、それらが起きにくいアプローチについて考えていきます。性暴力被害を経験した学生への対応や支援のあり方を見つめ直す機会になれば幸いです。

講師紹介：八幡　真弓（やはた　まゆみ）

性暴力被害当事者活動家＆支援者。『トラウマの国のアリス 解離性障害と性暴力被害』（生活思想社・2026 年）著者。Praise the brave 代表。自身の経験をもとに、「性暴力被害当事者が語るトラウマインフォームド・ケア」等の講演・研修、執筆活動を行う。

分　科　会

講師による講義や話題提供、参加者間のディスカッションや分かち合いを通して理解を深めます。学生相談・学生支援歴や所属、関心に合わせてひとつ選択し、２日間に渡って受講してください。定員を３０名程度としますので、申し込み時には第３希望まであげていただきます。

学生相談・学生支援に携わって間もない方にはG1、G2「学生相談の基礎と実践Ⅰ」をお勧めします。２つとも柱となる内容は共通ですが、細部は講師によって異なります。

なお、今年度に学生支援士資格の申請を予定している方は、G3「学生相談の基礎と実践Ⅱ」をお申し込みください。

１１月２０日（金）１３：００～１８：００
１１月２１日（土）　９：００～１５：３０

G1　学生相談の基礎と実践Ⅰ-①（研修領域A）

本分科会は、学生相談や学生支援に携わり始めた教職員・カウンセラーの皆様とともに、学生相談の基礎と実践を学ぶ分科会です。ミニレクチャーのほか、ディスカッションや簡単なワークを通して、学生相談・学生支援の基本的な考え方から、学生を理解する視点、個別の相談対応、話の聞き方、窓口・授業での関わり、学生支援における教職員の役割、連携・協働など、私たちが現場で直面する具体的なテーマまで理解を深めていきます。皆さんの関心や疑問、悩みに沿った内容を取り入れながら進めていく予定ですので、お互いに情報交換し、知恵を出し合いながら、温かい気持ちで楽しく学べる2日間にできればと思っています。

講師紹介：

奥野　光（おくの　ひかる）

学生数約 3000 人の私立大学で、学生との相談、教職員やご家族との連携・協働、居場所の運営やグループ活動などに携わっています。また、大学全体で学生の学びや成長を支えていくことに関心を寄せています。お互いに労いながら2日間学んでいきたいと思っています。

桶谷　雅人（おけたに　まさと）

東京科学大学保健管理センターカウンセラー（特任助教）。理工学系の大学院生を中心に、学生・教職員の相談を受けています。学生相談歴7年目に入りましたが、日々新しい発見や学びが多い現場だと感じます。みなさんと語らいながら、学生相談の楽しさや奥深さを味わう時間にできればと思っています。

G2　学生相談の基礎と実践Ⅰ-②（研修領域A）

本分科会は、学生支援に携わる大学教職員や、学生相談に関わり始めて間もないカウンセラーを対象としています。近年は、生成 AI の利用拡大などにより、学生の学びや相談のあり方も少しずつ変化しています。分科会では、学生相談や学生支援に関する基礎的な知識と体験的理解を深めることを目指して、講師による小講義や、参加者同士で疑問や実践を共有するワークを行います。皆さんへの事前アンケートの内容も踏まえながら、個別対応や連携・協働について一緒に学び、安心して交流できる場にしたいと考えています。日頃の悩みや工夫を持ち寄って、実践につながるヒントを得る機会にしていきましょう。

講師紹介：

太田　裕一（おおた　ゆういち）

工・情報学部キャンパスで、新入生ガイダンスで相談の練習としてメールをカウンセラーに送らせて全員に返信／X で学生向けに質問箱サービス(@gakuseisodan)／講義「こころの深層(アニメ解釈)」「ロックとアートからみるメンタルヘルス」を開講しています。

長谷川　伸江（はせがわ　のぶえ）

関東学院大学カウンセリングセンター専任カウンセラー。私立大学で学生相談を担当するようになって 17 年です。数年前から都市型のキャンパスを担当しており、学生同士の繋がり方や居場所、大学生活の余白について考える日々です。みなさまといろいろな経験を共有できる場になればと思っています。

G3　学生相談の基礎と実践Ⅱ（研修領域 A）

多様な学生の支援に関わることは、専門職に限られたことではなくなりました。学生支援に関わる教職員として、なにを備え、どう学生と向き合っていったらよいか、「学生助育」の理念と「学生支援の実践に求められる５つの力」を軸に、教育の一環としての学生支援について学びます。また、参加者間の意見交換やワークを通して、それぞれの職場や仕事についての整理をし、今後の支援につながるヒントを見つけられる時間にしたいです。学生支援に関わる教職員の出会いの場となることを願っています。

※この分科会は学生支援士資格認定規程に定められている指定研修に該当します。今年度学生支援士の一次申請をお考えの方は、必ず受講してください。

講師紹介：

今江　秀和（いまえ　ひでかず）

広島市立大学心と身体の相談センター副センター長・准教授。大学カウンセラー、臨床心理士、公認心理師。学生相談歴は、非常勤を含めれば 24 年、専任になって 14 年目です。いつもと違う場所でリフレッシュするとともに、職場で役に立つ何かを得られる場にできればいいなと思っています。

小松　孝徳（こまつ　たかのり）

明治大学総合数理学部にて、認知科学を専門とする教員として勤務しております。今回は講師を担当させていただきますが、学生相談に携わってからはまだ 13 年ほどの若輩者です。この分科会が有意義な学びの機会となるよう，参加者の皆さんと共に盛り上がっていければと思っております！

奥村　賢史（おくむら　たかし）

名古屋芸術大学の広報部にて、この部署だからこそできる学生支援とは何か考えながら仕事をしています。学生生活担当だった頃に「自己流」の学生支援に疑問を持ち、出会ったのが学生支援士という資格でした。大学に関わる皆さんの様々な目線で情報や考え方の共有ができればと考えております。

G4　学生支援におけるパーソンセンタード・アプローチ（研修領域 B）

クライエント中心療法の創始者ロジャーズは、その後、自らの理論と実践を「パーソンセンタード・アプローチ（PCA）」として発展させました。PCA は治療法ではなく、人の成長に関わるアプローチであり、学生支援に多くの気づきと示唆をもたらします。前半は、PCA の基本概念や、傾聴を含む対話的な関わりのポイントについて概説し、後半は、エンカウンター・グループの発

想をもとに、学生相談に活かせるグループ実践やファシリテーションの視点を紹介します。
　三条件の基本的態度にとどまらないロジャーズ理論のエッセンスを、日々の学生支援を考えるヒントにして頂ければ幸いです。実践事例（個別面接やグループ実践）の提供も歓迎します。

講師紹介：
本山　智敬（もとやま　とものり）
　福岡大学人文学部教授。臨床心理士、公認心理師。学生の頃に PCA に出会い、それ以来、個人カウンセリングをはじめ、中学・高等学校でのエンカウンター実践や里親支援のネットワークづくりなどに取り組んでいます。主な著書『パーソンセンタード・アプローチとオープンダイアローグ』（遠見書房，2023）
小田　真二（おだ　しんじ）
　九州大学キャンパスライフ・健康支援センター（学生相談室）准教授。臨床心理士。大学カウンセラー。PCA は日々の学生相談の土台ですが、日々の現場で点検する余裕は持ちづらいもの。普段の臨床から離れて余白を作ることで、参加の皆様とじっくりと吟味できればと思います。

G5　留学生支援 -異文化を楽しむコツ-（研修領域 A）

　外国人留学生は年々増加し、その支援は各大学の重要課題となっています。しかし、言葉や文化の違いから、「留学生はよくわからない」「意思疎通が難しい」という話をよく聞きます。しかし、そもそも異文化とは「言葉にならない」「理解できない」ということです。本分科会では、講師や参加者の異文化経験について、皆で協力して言語化を試み、異文化の深さと楽しさを再発見したいと思います。また、異文化の視点から、「留学生とはどういう存在か？」「彼らは何に困っているのか」「具体的な支援方法（AI 機器）」などについても再考します。留学生担当が長い人も、これから担当する人も、異文化に興味がある人も、楽しめる二日間にしましょう。

講師紹介：
黄　正国（こう　せいこく）
　九州大学で留学生相談を担当。2003 年に私費外国人留学生として来日し臨床心理学を学びました。2015 年以降は学生相談を中心に実践を重ねてきました。この分科会では、自身の留学経験も踏まえながら、留学生支援について皆さんと一緒に考えられたらと思っています。
小島　奈々恵（こじま　ななえ）
　東北大学で主に留学生相談を担当。幼児期から青年期を海外で過ごし、日本帰国後、臨床心理学を学びました。2005 年度から留学生支援での実践を重ねてきました。この分科会では、自身の海外経験も踏まえながら、留学生支援について皆さんと一緒に考えたいと思います。
高松　里（たかまつ　さとし）
　1989 年から九州大学で留学生担当カウンセラーとして働き、定年後の現在も週 2 回同じ仕事をしています。多分、日本で一番キャリアの長い留学生カウンセラーなってしまいました。異文化に翻弄されつつ楽しくやってきました。その醍醐味をお伝えしたい！

G6　大学生の触法行為（研修領域 D）

　大学における学生の触法行為への対応・支援をテーマに、触法行為の「意味」を捉える枠組みを提示し、行為の背景を欲求ではなく「痛みへの防衛」として捉える視点を紹介します。それにもとづいて、リスクアセスメントの重要性、再発防止と回復を支える関わり、支援上生じる困難

や留意点、および組織としての対応について解説します。
本分科会では事例提供者を募集します。事例を通して、危機場面に直面する教職員・支援者が、第三者も含めた体制で行動によらない解決や加害学生の成長促進を目指す支援のあり方について皆さんと学びを深めたいと思います。個別カウンセリングに限らずいろいろな事例提供をお待ちしています。

講師紹介：
工藤　晋平（くどう　しんぺい）
名古屋大学アビリティ支援センター長・教授。精神科での心理療法の他、刑務所での非常勤カウンセラーを経験し、出所後の元受刑者の社会復帰を支援する NPO 法人の設立・運営に関わった経験から、人と社会の関係の間に生じる問題に関心を寄せるようになり、現在、障害のある学生の修学支援に携わっています。
鈴木　健一（すずき　けんいち）
名古屋大学学生相談センター長・教授。2004 年から金沢大学、2011 年から名古屋大学にて学生相談に携わっています。専門は対人関係精神分析ですが、現場ではセンター長として学生の成長のためならば何でも取り組むことをモットーに、散歩や恋愛講座等も積極的に取り入れています。
江上　奈美子（えがみ　なみこ）
東京農工大学保健管理センターで専任カウンセラーをしています。大学生の事件に関わる機会は、私自身はそう多くありませんが、知識を持っておくことや対応についてイメージしておくことは大切だと感じてます。皆さまと一緒に学びを深め、今後の実践のヒントになるような二日間になると嬉しいです。

G7　学生支援におけるマインドフルネス（研修領域 B）

近年、大学現場では不安、抑うつ、発達特性、スマホ依存、対人関係の困難など、多様な課題を抱える学生支援が求められています。本分科会では、学生相談・学生支援に活かせるマインドフルネスの基本的な考え方を紹介し、実際に体験していただきます。単なるリラクゼーションとしてではなく、「自動操縦」になりやすい思考や感情、行動パターンに気づき、回復的な選択肢を増やす支援として位置づけます。大学生への実践例や、依存・不安への応用、支援者自身のバーンアウト予防にも触れながら、学生支援現場で無理なく活用できる方法を体験的に学びます。具体的な事例を２ケース募集します。

講師紹介：
小林　亜希子（こばやし　あきこ）
公認心理師・臨床心理士。MSC・MBRP・MBSR 講師。横浜市立大学、関東学院大学、上智大学等で学生相談に従事。現在は NPO 法人代表。趣味は登山、キャンプ、温泉。
木内　理恵（きうち　りえ）
法政大学多摩学生相談室主任心理カウンセラー。公認心理師・臨床心理士・SEP。学生相談 17 年目ですが、「どう関わるか」はいまも試行錯誤の連続です。安心・安全な雰囲気の中でまず自分自身の感覚を丁寧に味わい、それをゆっくりと他者へと向けていく時間を、皆さんと共につくれればと思っています。

G8　教職員のためのストレスマネジメント（研修領域 B）

ストレスと上手に付き合うためにストレスの仕組みを 3 つのキーワード（ストレッサー・ストレス反応・ストレス対処法）で理解し、予防的なストレス対処法を体験的に紹介します。ワークショップ「こころとからだのつながり」ではセルフ・ケア技法を体験・習得し、教職員が自分で自分を労う習慣を身につけることを目指します。健康の保持増進のために「質の良い眠りのためのリラックス法」も体験・習得します。そのうえで、学生相談室で実践できそうなストレスマネジメント技法を日々の仕事にも活かしていただければ幸いです。

講師紹介：

坂上　頼子（さかがみ　よりこ）

教育と福祉の臨床「オフィスかけはし」主宰。フリーランスの臨床心理士として幼稚園、小学校、中学校、高校、大学へ「ストレスマネジメント教育」の出前授業を、保護者や対人援助職へ「ストレスマネジメント講座・ワークショップ」を担当。放送大学「学校臨床心理学特論」分担講師。

小林　弥生（こばやし　やよい）

関東学院大学カウンセリングセンター専任カウンセラー（臨床心理士・公認心理師）。学生対応等で教職員と連携する中、多忙な毎日に疲弊し、ストレスを溜め込んでいる教職員が多いことを日々痛感しています。参加者の皆様とご一緒に、こころとからだの声に耳を傾け、丁寧に向き合う分科会にしたいです。

G9　高専におけるいじめ・ハラスメント対応（研修領域 D）

学生数が 1500 人に満たない小規模な高等教育機関である高専では、いじめ・ハラスメントの問題が複雑化しやすく、近年、喫緊の課題となっています。

教員は原則として異動がなく、学生は本科で 5 年（商船学科は 5 年半）、専攻科へ進学すれば 7 年（7 年半）在籍するという環境下で、組織として難しい対応を迫られることも少なくありません。こうした高専の特徴やそれぞれの学校の文化・風土を踏まえたアプローチについて参加者の皆さんと一緒に考えたいと思います。

本分科会では、いじめ・ハラスメントの対応について小講義やグループワークを通して、相互の体験から学びます。事例提供もお待ちしています。

講師紹介：

濵中　ミオ（はまなか　みお）

仙台高等専門学校学生相談室カウンセラー。高専の学生相談に携わるようになり２０年。東日本大震災を経て、ひたすらに予防教育活動に取り組んできました。令和元年実践研究奨励賞をいただいたことをきっかけに、実践研究に力を入れるようになりました。分科会でお会いできることを楽しみにしています。

野原　一徳（のはら　かずのり）

これまで複数の大学で学生相談に携わってきました。現在は高専からの編入生を多く迎える大学に所属しており、高専卒業後の学生たちと出会っています。分科会では高等教育機関としての共通性や、高専ならではの特色や持ち味を考えてみたいです。また知見や体験を分かち合いたいとも思っています。

G10　カウンセラーのための事例検討（研修領域 C）

この分科会ではカウンセラーのための事例検討を行います。参加者の方から事前に事例を募り、それらについて全員でじっくり検討しましょう。事例の検討については、小グループでの話し合いやそれらの全体での共有等を通して、すべての参加者がコミットできるものにしたいと考えています。そして、検討対象の事例だけでなく、参加者ご自身がこれまで担当した事例や今後経験するかもしれない事例にも思いを馳せられるものにしたいと思っています。同時に、お互いの日頃の経験や思いを分かち合い、分科会終了後、皆さんの足取りが少し軽くなることを目指します。参加者全員で楽しい場と時間を作りましょう。どうぞお気軽にご参加ください。

講師紹介：

池田　忠義（いけだ　ただよし）

東北大学学生相談・特別支援センター長（大学カウンセラー、臨床心理士）。学生相談に日々取り組みつつ、障害のある学生への支援にも関わっています。本研修会を通して参加者の皆様同士で意見や知恵を共有し、新たな気づきや出会いが生まれることを楽しみにしています。

馬渕　麻由子（まぶち　まゆこ）

東京農工大学健康・相談総合支援機構カウンセラー。病院臨床を経て、学生相談歴は 14 年目。障害学生支援、ハラスメント相談など様々な支援や調整に携わっていますが、力動的視点や発達論を用いた心理アセスメントや心理面接も大切にしています。事例からともに学ぶ二日間にできたらと思います。

G11　個人と組織を見据えた学生支援（研修領域 B）

学生ひとりひとりの健康でいきいきとした学生生活を支えるには、学生個人の支援のみならず、学生を取り巻く教職員や家族、学生が所属するゼミや部局といった集団・組織などを支援の対象とする必要があります。本分科会では、主に教職員を対象とし、事例検討と体験的学習を通じて、個人と組織を見据えた多層的な学生支援実践について学びます。過去の教職員相談事例を踏まえつつ、効果的な面接法や信頼関係の構築について学ぶとともに、グループディスカッションや描画法などを取り入れ、個人と集団・組織の相互作用を理解し、現場で活かせる支援力と連携力の向上を図ります。相談事例を募集しますので、それも含めて積極的な参加をお願いします。

講師紹介：

松本　寿弥（まつもと　ひさや）

名古屋大学学生支援本部学生相談センター教育連携室長。臨床心理士、公認心理師。個人も組織も大切にする実践を心がけています。大学には様々な立場の方がいて意見がまとまりづらいこともありますが、学生の支援や健全育成は誰もが賛同できる旗印だと感じています。

松川　春樹（まつかわ　はるき）

金沢大学保健管理センターの専任カウンセラー。学生相談に携わって 13 年目になりますが、教職員の方々と協力してよりよい支援を日々模索しています。この分科会を通して、参加者の皆さんと、それぞれの職場に戻って学生に対応する際のヒントを得る体験ができればと思います。

G12　みんなで考える研究への道 -実践を論文にしたいあなたへ-（研修領域 F）

日々の学生支援・学生相談の実践において、興味深い現象に出会った方は多いことでしょう。折角だし学会誌に発表しよう……と投稿したものの、返ってきた査読コメントに「もう論文なん

て書かない」と思う人もまた、少なくないかと思います。本分科会は、「興味深い現場体験」をお持ちの人にご発表いただき、研究のハードルを乗り越えられるためにみんなで知恵を絞ろう、がコンセプトです。実践体験はそれだけで豊かな内容をもつのですが、研究としてまとめるには「コツ」がいります。そのコツを講師からお伝えし、発表と論文のあいだのステップを作るのが本分科会です。「もう論文なんて書かない」なんて、いわないようになりたいですね。

講師紹介：

山川　裕樹（やまかわ　ひろき）

成安造形大学教授。臨床心理士、大学カウンセラー。学生相談学会や他学会などで編集委員の仕事をしておりました。そのなかで考えたことを『事例研究論文のつくりかた』（遠見書房）という本に昨年まとめたのでよければご参照ください。当日は、本の内容も踏まえて最近考えていることをお伝えします。

小橋　亮介（こばし　りょうすけ）

岡山大学学生相談室講師。臨床心理士、公認心理師。学生相談学会では研究委員、別学会では編集委員の仕事をしております。「論文を書きたくない」気持ちにたまに負けながら、細々と研究を続けています。当日は実践を論文にする際の困難とコツについて、みなさまと一緒に考えられたらと思っております。

※　分科会 G4・G6・G7・G9・G10・G11・G12 にご参加を検討される方は、７ページに記載の「※２」を必ずご確認ください。

参加申し込み方法　要領

今年から、参加申し込みは、すべてConfitサイト（下記URL）からのオンライン登録で受け付けます。　https://jascz.confit.atlas.jp/login

右のQRコードからもアクセスいただけます。

お申し込みは、次の流れで進みます。

１．A-Pass（大会用アカウント）を取得する

メールアドレスとパスワードを登録し、A-Passを作成します。

２．会員認証・プロフィールを登録する

正会員の方は会員認証を行います。機関会員・一般の方は会員認証なしで進みます。続けてプロフィール（氏名・所属・連絡先など）を登録します。

３．参加登録・お支払いをする

参加区分・希望する小講義／分科会を選択し、参加費をお支払いください。お支払いは「クレジットカード」または「銀行振込」から選べます。

各手順の詳しい操作方法は、Confitサイトに掲載の参加申込マニュアル（正会員向け／機関会員・一般向け）をご参照ください。入力項目の記入方法は、申し込みフォーム画面の案内にしたがってください。



一般社団法人 日本学生相談学会
Japanese Association of Student Counseling